

2009.03.12：平成21年度 予算等審査特別委員会（第10日目）

「教育について」

池田友信委員

ただいま日本語の大切さと、そして理科の大切さの話がありましたが、私の方からは芸術、文化も大切ですよという見地から質疑をさせていただきます。関連で他局にまたがる場合もあると思いますので、よろしくをお願いします。

文部科学省が地域の教育力をどう高めるかということで、学校運営に住民が協力する学校支援地域本部というものが立ち上がったようではありますが、どんな内容で進めていくのかお伺いします。

教育指導課長

これまでも各学校におきましては、地域の皆様にさまざまな形で御協力をいただきながら、学校運営や教育活動を行ってまいりました。学校支援地域本部は、そうした取り組みをさらに発展させて組織的なものにしていくものでございます。具体的には、ゲストティーチャーや学習支援ボランティア、防犯ボランティアなどの活動を主体的、組織的に展開していただき、子供たちのより豊かな教育環境を実現していこうとするものでございます。

この事業では、学校を支援していただく人材の確保や連絡調整を、地域のコーディネーターの方をお願いすることとしておりまして、本年度はモデル地区として三つの小学校区で実施しているところでございます。

池田友信委員

私の方から、人間形成で基礎をつくられると言われる小学校の期間、現在のそういった小学校の期間の問題について絞っていきたいと思いますが、小学生を取り巻く状況が非常に大きく変わってきております。先ほども論議がありましたように、高い新しい知識がどんどん求められ、あるいは技術が求められる反面、現実には生活面でのストレスのたまりと、あるいは多くの悩み、問題を抱えているのが現状だと思います。総じてどんな変化があって、どんな問題を今小学校の子供たちが抱えているのか、その辺についてひとつ教育局の所見をお伺いします。

教育指導課長

社会や経済の状況が複雑化する中で、子供たちを取り巻く環境が大きく変わり、児童の社会体験や自然体験の不足、家庭環境の複雑化、子供同士のつき合い方や遊びの画一化、配慮を要する児童の増加などの課題があらわれてきているといった現状がございます。そうした中で、子供たちには、人間関係がうまく築けない、生活習慣やモラルが身につ

いていない、忍耐力が足りない、学校にうまく適応できず不登校になるなどといった問題点が生じ、憂慮している状況でございます。

池田友信委員

そういったそれらの問題に対して、教育指導面でこれからいろいろ考えていかなければならないと思います。私としては、点数であらわれる学力だけでなく、学ぶ力とか、あるいは学ぶ意欲とか、あるいは豊かな心とか、あるいは人間性を高めていくと、そういったことを重視した教育指導ということが必要だと思うのです。これは、地域によって、都市によって違うと思うのですが、仙台市の独自の取り組み方、強くこれから求められると思うのですが、教育局の取り組みについて伺います。

教育指導課長

本市の学校教育の目標は、まさに御指摘のとおり、児童生徒の知・徳・体をバランスよくはぐくむことでございます。各学校では、生徒指導や道徳教育、さまざまな芸術や文化などに触れる活動などを通して、児童生徒の人間性や豊かな感性を養うための指導の充実に努めているところでございます。具体的には、小学生を対象とした音楽鑑賞会であるとか演劇鑑賞会を実施しているところでございます。

池田友信委員

教育指導について、人間性を豊かにするのはいろいろありますが、私の方から、芸術、文化面に絞りまして質疑をしていきたいと思っています。

平成17年11月に内閣府が発表しました構造改革特区、この認定において、静岡県伊東市が書道教育特区に認定をされました。平成18年4月から伊東市の小学校で独自に、全国初めてであります、1年生から書道科の授業を開始したわけあります。

そういう意味で、昨年5月に我が会派としましても視察しようということで、小野寺健議員と一緒に伊東市を訪問しまして、伊東市の教育委員会、あるいは市立南小学校、それから指導に講師を派遣しております日本書道芸術専門学校を視察しまして、いろいろ調べてまいりました。訪問する前に仙台市と対比をするためにも、いろいろ意見を聞くため、教育長とあるいは企画市民局との話し合いとか、あるいは視察の後においても、それでは仙台ではどうなのかということを含めて、仙台市の小学校2校を授業参観をさせていただきました。仙台市としまして、まず書道特区ということに対してどんな受けとめ、分析をされておりますか。

教育指導課長

学習指導要領によりますれば、小学3年生から毛筆による書写を行うといったところで

ございますが、特区伊東市におきましては、小学校1、2年生で書道の授業を開始したというところでございます。指導に当たっては、伊東市内にある書道芸術専門学校と連携し、講師として派遣された書道師範免許状取得者等の有資格者が担任教師とチームティーチングを組み、週1時間程度の授業を行っているというふうに伺っているところであります。

池田友信委員

そういう取り組みについて、仙台市の教育委員会としてはどんな受けとめをしているのか、ここもお伺いしたいと思いますし、またあわせて、現在全国で書道特区ということを推進している状況ですね、現状はどんな状況になっておりますか。

教育指導課長

現在、書道特区を申請し実際に授業を行っている小学校は、全国で3校というふうに把握しております。来年度は、さらに11校が実施予定というふうに伺っております。

また、伊東市は書道が大変盛んな土地柄でありまして、伊東市の教育目標の中に、心の教育の充実と表現力の向上を掲げ、書道がそれらの実現に効果的であるという認識のもと、重点として取り扱っていることから、書道特区が可能であるというふうに聞いております。伊東市は、その状況を踏まえ、特色のある教育活動を行っているなどというふうに認識しているところであります。

池田友信委員

私もずっと代々書道の方をやっておりまして、少なからず書道を理解しているつもりでしたが、こういった特区を取って導入をして、市を挙げてやっていくということについては私も驚きであります。

伊東市の南小学校の視察をしまして状況を見ますと、書道の専門教室があって、明るく非常に元気に、そして楽しくやっておる状況を見て、私は非常に驚いております。それも、基本に大変忠実に指導している状況を見ますと、私が60年前に指導された指導の仕方と全く同じような、基本に忠実な指導の仕方をしておりまして、これはまさにすばらしいかと、日本の本当に文化を引き継いでいるということをつくづく感じた次第であります。3年生までに漢数字の一、二、三をきちっと書く、片仮名のイ、ロ、ハを書いて3年生に受け継ぐところ、こういうふうな基本をきちりやっておる状況であります。こういったことについて、子供のため、あるいは将来の日本に似合う人を育てることを考えますと、私はこの書道特区に取り組んだということについて、非常に敬意を表すると同時に驚きであります。この書道特区、もし仙台で導入するという状況になった場合、教育局としてどんな問題、課題がありますか。

教育指導課長

課題としてはさまざま考えられますけれども、本市での実施について考えた場合、学校では各教科の教えるべき内容をきめ細かに指導するために、授業時間を極力確保するよう努めている状況でございます。こうした中、他の教科の時数から書道に時数を割いて本格的に教えるといったことは難しいかというふうに思われます。

なお、本市には、全市的に学校にかかわる統一した書道指導者の組織がない状況でございますが、それぞれの学校の事情に応じて、書道に親しむ機会をつくり出すことなどについては、十分に考えられることというふうに考えております。

池田友信委員

子供のためにどうなのかということも考えなければならないのですが、伊東市では、ワープロ、パソコンの時代だからこそ、子供たちに日本の文化の原点である書道を身につけさせたいと、こういうことでいろいろディスカッションをして、今言われたように、この時間を設けるならばどこか削らなければならないと、こういう形になると思うのですが、その必要性、共通理解というものについて、これを取り組んでいくと、これが大変だと思うのです。それをやってきた。

あるいは、学校でそういう専門的な技術者がいませんから、当然支援体制、民間のそういった協力体制をどういうふうに確立するのかと。どんな教程で教えるかという教程の統一性、あるいはこれからの中でそういう進めていくために、その指導する環境とかいろいろあると思うのです。問題は、それを比較して仙台市として、こういった問題が本当に十分仙台市としてあるのかということ、これは何も書道ばかりの問題ではありませんけれども、指導体制一つとして、冒頭文科省が取り上げた、地域の中での教育の体制を高めていくということを考えますと、それでは、私は、今いろいろ課題がありますが、その中の一つ、指導支援体制ということについての確立を考えた場合に、書道ばかりでなくて、これは仙台市としてはどうなんですか、この芸術、文化面に対して、体制の確立が必要と思いませんか。

教育指導課長

書道に限らず日本の伝統文化の指導に当たりましては、総合的な学習の時間の中で、例えば茶道やお琴など、個別的に専門的な指導者の御支援をいただいている学校も多くございます。次年度からは、さらに家庭、地域、学校のよりよいパートナー関係を築き、さまざまな方に授業や課外活動への御協力もいただけるような支援体制づくりを本格的に進めてまいりたいというふうに考えております。そうした中で、例えば書道等の指導に当たりまして、レベルの高い専門的な指導者に御支援いただくことは、子供たちにとってよいことではないかというふうに思っております。

池田友信委員

ちょっと角度を変えて聞きますが、参考にお伺いしますけれども、本市のスポーツ団体の現状とスポーツの振興ということを考えた場合に、どんな状況になって、どんな効果が出ているのかちょっとお伺いします。

企画市民局長

本市のスポーツ団体でございますが、全市的な組織といたしまして4団体、各競技団体が加盟しております仙台市体育協会、学区民体育振興会連合会、体育指導員協議会、スポーツ・レクリエーションネットワーク、こちらの四つがございまして、こちらの連合組織として仙台市スポーツ連盟がございまして。

これらの団体でございますが、さまざまな御協力をいただいております、市民総合体育大会などの市民参加型イベントの共催や、本市のスポーツ施設などへの指導者の派遣、体育指導員の方による児童生徒の体力測定など、これら関係団体と仙台市との緊密な連携が、本市のスポーツ振興上、大きな成果を上げているものと認識いたしております。

池田友信委員

仙台が、そういった団体が必要だと、あるいは育成する必要があるということで、仙台市の肝いりで各区にスポーツ団体を育成すると同時に、仙台市独自の支援体制ができています。学区民、スポーツと振興の団体があります。それで、各区の中で体育館を建設され、センターづくりでいろいろな形でスポーツのセンター、運動、政策、そういったものが各団体からいろいろな意味で知恵を出していただき、そして活動に対して参加していただいて、仙台市のスポーツ振興に大いに役立っていると私も思っております。

しかし、芸術、文化団体はどうなんだろうかとすると、非常に私は現在の県の芸術団体ありますが、仙台市の芸術団体はありません。これは、そういった団体たちの立ち上がる体制、意欲あるいはそういったものが必要であります、仙台市がもっとそういう芸術、文化に対して、スポーツ団体と同じようにパートナーとしてそういうことの必要性を感じるならば、育成していくという方向でこれからやらないと、芸術、文化の学校でそういったスペシャリストの人を派遣してくださいと、こういう形であっても、これはなかなか対応できない。車の両輪になっていないというのが現状であります。今、子供たちがこれからそういった意味で支援いただいて、いろいろな意味での文化関係に対する活動を学校で取り入れようということについて、これは非常に大きな仙台市として、そういう団体が育成されていなかったと。こういうことに対して、問題、欠点があると思うのですが、いかがですか。

企画市民局長

御指摘の仙台市独自の芸術、文化団体の育成という観点でございますが、育成と申しますか、今現在存在をしていない状況でございますので、ただ、その存在につきましては行政が主導するよりは、お考えでありますとか活動の内容が一致された方々によりまして、主体的にお取り組みいただくことが基本であろうかと認識をいたしております。

ただ、現在でも、文化面における教育活動支援として幾つかの事業を行っておるところでございます、市民文化事業団から市内外の学校の現場に音楽や演劇などの専門家を派遣する事業に取り組んでおります。また、今後より多くのカリキュラムやノウハウの蓄積、専門家、関係団体等のネットワークの拡大等を図りながら、学校現場への有効な支援に努めてまいりたいと考えております。

池田友信委員

教育振興とそれから企画市民局の、この辺の連携の問題がこれから出てくると思うのですけれども、政令指定都市になってもう20年になります。仙台市が、政令都市の中で、市の独自の美術館を持っていないということは、非常にこれはもう大変残念に思うわけですが、芸術、文化のセンターのそういったものがないということが、長い間、仙台市としては、そういった芸術、文化に対する団体育成の拠点が無いと言っても過言でないというふうに思うのです。

名古屋では、ボストンの美術館、世界で初めてであります、ボストンの美術館の分室を誘致したのです。そこで、まちづくりのコアにしている。あるいは東洋の美術館、東洋、アジア系の美術館で、そこでアジア系の芸術家の育成、発表、こういう場所を名古屋で設置しております。そのほかに市立の美術館があると。そういうふうな状況にあったり、あるいは横浜においては、みなとみらいの開発と同時に財団で美術館をつくりました。一線の企業から資金運営をされておまして、こういった意味で運営をされておったり、あるいは京都においては、そういった文化団体の拠点が、市の学校の古いところを活用して拠点として、政策の立案として、京都のお寺に、もっと参道に文化の展示場を活用したらどうだというふうな提言をしたりして、行政と文化団体が相まって文化活動を展開していると。こういう状況を見ますと、仙台市の中で非常に他の都市から見ますと、芸術、文化の状況の格差があるということをぜひこれは認識しなければならないし、対策を講じなければならないと思うのであります。

私が、議会の関係で海外の視察をしていろいろつくづく感じるのですが、美術館とかを見ますと、特に仙台市の美術館にない展示場の表現の問題とか会場の問題とかいろいろ比較すると、ああ、これはもう相当開きがあるなというふうなことをつくづく痛感させられております。特にゆとりのある会場の関係とか、あるいは地域のそういった運営管理に参加する体制、あるいはメセナなどというヨーロッパの方であります、民間企業の支援体制があるんですね。ビール1本飲むと3%は自動的に文化基金にもう利益を

入れると。そして、コマーシャルベースの支援でない。こういう体制がもう既にスタートしています。会場では、もう写真もオーケー、あるいは学生などが作品の前でイーゼルを立てて模写をするというそういった勉強の機会、開放されている会場、あるいは展示場の中ではフロアにイスがあって、そこでゆっくり鑑賞してくださいと。中には、展示場の中に喫茶コーナーがあって、食事をしながら時間になって休んだらまた見てくださいと、こういうふうな会場づくりがあります。これは、非常に伝統、歴史の関係がありますが、非常に私は文化、芸術に対する姿勢なり理解というものの、この差ではないかというふうに感じるわけです。

以前、オランダの美術館に行って展示場の会場で見ましたら、郷土の画家の絵の前で、小学生の4、5年クラスが二、三十人いすと地べたのフロアに座って、先生の絵に対する説明を聞いていました。ひとつ座っているということは、そこで五分なり十分鑑賞するということです。それを指導するという、そういうふうな教育の芸術、文化に対する取り組みの姿勢というものが、非常に私は日本あるいは仙台と違うなということを感じたわけでありましたが、こういったことを聞いて、教育を取り組むこの芸術、文化に対する考え方、どのように教育長は感じますか。

教育長

ヨーロッパでは、美術館、博物館は歴史も古く、市民にとって身近な存在であり、また、市民、企業の支援が極めて大きいと伺っております。社会全体が貴重な文化を支えようとする環境にあり、また、子供たちが小さいころから文化に親しむ機会が多く得られるということを考えますと、ヨーロッパの文化芸術の歴史的、また社会的な厚みを感じるところでございます。我が国も、ヨーロッパと比較しましても遜色のない文化芸術の蓄積がありますので、それらをより日常的に楽しむ環境をつくっていく上では、こういったヨーロッパの取り組みは参考になるものと存じます。

池田友信委員

私は、これからの子供たちを育てる中では、教育分野だけでは、そういったものが十分に対応できない状況にあると思うのです。したがって、民間の力を借りてそういった子供を育てていくという、そういった支援体制をいかに確立するかということを考えますと、私は芸術分野の中では、仙台はそういった支援体制を育成する、確立するということに対して、これから取り組んでいかないといけないのではないかとこのように感じるわけであります。

仙台は、伊達文化が伝統的にあります。藩祖伊達政宗公は、戦国武将の中でまれに見る書道の達筆者であります。絵画、あるいはお茶、それから華道、能、そして邦楽、盆栽、水石など、伊達の文化の中では非常にいいものがある、しかし埋もれておるものもあります。例えば最後に言った水石なんていうのは、政宗の水石が今の日本の中での上

位ランクの中で非常に評価されております。これは、博物館に今保存されておりますが、この石をめでて、そして鑑賞することによって、自然を愛し、忙しい中で、自分の部屋の中、あるいは床の間でそのいやしをする。そういった効果のある石を大切に、そして鑑賞すると、こういう文化が仙台には脈々とあるんですよ。それをどのように、大事に子供たちにも教えていくかということが、私は仙台らしさということを考えますと、仙台のこの伊達文化というものに対してもっと掘り起こして、そして大事に傳承していくという、子供たちに教え伝えていくという、そういった仙台らしさということを教育の中に取り組みすることも必要ではないかというふうに思うのですが、教育長の御所見をお伺いします。

教育長

仙台は、御指摘のように伊達政宗公の歴史ある城下町としまして、大崎八幡宮を初めとする見事な建築物や、書道、茶道、華道などの日本文化を大切にはぐくんできた土地柄と存じます。これまで子供たちは、例えば博物館学習で伊達政宗公直筆の書などの伊達文化に触れたり、また、社会の歴史の授業などでも、茶道などの学習をしておりますけれども、今後とも本市に蓄積されました文化資源を生かしながら、本物の文化に触れる機会を多く与えていけるよう努めてまいりたいと存じます。

池田友信委員

今、教育長の方から出ましたけれども、いろいろな宝、いろいろな財産があります。ぜひこれからの中で、例えば博物館にあるものをいろいろな形で生かしていく、そういったものが教育の中でも生かされると、こういった工夫がこれからは必要ではないかと私は思います。したがって、そういったことも含めて、これからの子供の教育に対して、ぜひ芸術、文化に対する取り組み、そして、私は、長い間培っておる伊達文化ということに対する取り組み、掘り起こし、そして傳承と、こういったことについて、ぜひこれから工夫して取り組んでいただきたいと思います。さように、市長いろいろな論議を聞いて、市長の御所見をお伺いして終わりたいと思います。